

Pharmaizm

ファルマイズム

株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1

Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会

印刷：小野印刷

■ 第126号 ■

全日本民医連第43回定期総会 in 広島

本部 課長補佐 鈴木 健仁

2月22日(木)～24日(土)に平和記念公園にある広島国際会議場で行われた全日本民医連第43回定期総会に参加しました。出席代議員数は599名でした。

1日目の本会議では、広島市長からの祝電と、前名護市長の稲嶺進氏からのメッセージがありました。

記念講演では、被爆体験者として小方澄子(おがたすみこ)さんが当時の様子を語って下さいました。爆心地から700mの近距離で被爆したそうです。生徒と教師350人が犠牲になりました。ノー



定期総会に参加した鈴木課長補佐

2018年さようなら原発・核燃「3・11」青森集会

本部 主任 阿部 千佳子

3月11日(日) 青森市青森市民ホールで開催された「2018年さようなら原発・核燃『3・11』青森集会」に参加しました。ファルマから22名の参加者でした。

まず集会では、開会の挨拶後に猿田佐世弁護士を講師に「日米原子力協定と核燃サイクルの行方」の講演が行われました。その中でアメリカが日本の使用済み核燃料の再処理については反対し止めるよう日本へ言っても従わず、実は日本がやりたいから「アメリカ発

の情報を演出してやっているというところに非常に驚きました。何となくアメリカの影がいつも日本の政策にはあるような気がしていました。更には危険な再処理を止めようとしていないことに憤りを覚えました。「日本は自分たちで決められる」猿田弁護士の言葉を忘れずに、これからも反対行動を強めていきたいと思いました。その後福島、大間、六ヶ所からの報告がありました。特に福島からの報告は震災後7年

事務養成の部分である法人では、5年間で採用が24名ありましたが、25名の退職が出たこと、医師対策でも医療構想がすっかりしていないと若手医師は将来の姿を描けず退職に至るため、集団としての政策が必要との意見が出されました。3日目は三つの分會からの報告後、全体討論でも各県連の取り組みや問題点が報告されました。その中で、郡山医療生協の経営危機の問題が深刻な状況との報告がありました。経営幹部が経営資料の見方もわからず、中長期計画もなく病院の新築に至った為、現在経営困難に陥っているとのことでした。前日にも話題に上がっていた医療構想、経営計画を合わせて考えること、実行することの重要性を感じました。



今年は金魚ねぶたを背負いました



ファルマから参加した皆さん

全体を通して、日本全国で似ているような事例がたくさんあるというところは、日々の仕事の中で同じ悩みを抱えているということでもあると思います。様々な事例を体験、共有していく中で職員の成長がある。経っても被災者の方の辛い状況がわかり、胸が苦しくなりました。集会後は青森駅前からパレードをしました。今回のファルマのグッズは、就業後に多くの方が作製した「金魚ねぶた」とリンゴのパネルです。特に金魚ねぶたは今回立体的な作製にチャレンジしました。その甲斐もあり、金魚ねぶたと一緒に背負いたいという参加者がいたり、非常に目立ち沿道の方やドライバーにアピールできたりし



青森県から参加の皆様

3・11さようなら原発核燃弘前集会

ファルマ弘前薬局 鈴木 菜夏

3月3日(土) 弘前市総合学習センターで行われた3・11さようなら原発弘前集会に参加しました。「被ばく牛と浪江町に生きる」というタイトルで吉澤正巳さんより講演がありました。

一昨年も吉澤さんのお話を聴き、この日は改めて聴きました。憲法を守るという観点からも、広島で開催した今回の総会で改めて3,000万人署名を達成するという思いを強くもちました。

経営問題では、医師問題や職員の育成を含めた中長期計画、幹部集団の一体化、管理体制強化が組織を運営する上で、重要だと改めて感じました。地域に求められる、求めに応じられる組織であることが今まで以上に必要なことだと感じました。

また、ファルマレンジャーも子どもから大人まで大人数で、気軽に話しかけてくれる方もいました。これからは楽しくやりながら、ファルマの原発・核燃反対の強い思いを様々な場面でアピールして、地域の方などを巻き込んでいきたいです。

弘前市では、原発事故から7年も経とうとしているのに現状は変わっていないことや事実が隠されていることを実感しました。吉澤さんの、自分たちは被害者なのになぜ自ら浪江町を離れなければならないのか、という言葉が重く感じました。青森県は原子力・核燃料に関しては世界でも突出し、唯一の米軍基地と原発のある危険な地域です。



講演をした吉澤正巳さん

被災64年 3・1ビキニデー in 静岡

黒石薬局 津川なつみ

2月28日(水)～3月1日(木)、「3・1ビキニデー」に参加しました。まだ雪が積もる青森とは異なり、静岡は暖かくて梅が咲き、夏みかんや金柑が実っていました。

青森県からの参加者は5名で、会場では青森県と書かれたオレンジ色の旗がとて目立っていました。初日は日本原水協全体集会と分科会、二日目は募参行進と募前祭・ビキニデー集会が行われました。

分科会では、マーシャル諸島から参加のブルック・タカラさん(エニウエトク環礁在住)のお話がとても衝撃的でした。当時、水爆実験のため島民は幾度も引越した余儀なくされ、アメリカから配給された食糧は加工食品の他にカビの生えた白米、虫が混じった小麦粉等で、飢餓や病気に苦しむ人が大勢いたそうです。安全宣言が出されて数年が経過してもヤシの木や穀物は育たない。何が安心・安全なのか、政府は十分な情報を公表しないため調べる術がなかったそうです。もっ

とマーシャル諸島の現状を知るためにも、専門医師の方々に調査して欲しい、そして核兵器禁止条約をこれからは強く推し進めて欲しいと訴えていました。

二日目のビキニデー集会会場には、久保山愛吉氏のご家族や放射能の被害に苦しむ人々のパネルが展示されていて、目を覆いたくなるような写真も数多くありました。悲しみや恐怖に負けず3,200万筆以上の原水爆禁止署名を集めた人々の想いが形となり、全ての運動や闘いに繋がって今があるのだと再認識できました。とても貴重な二日間となりました。

